第12回　勝福寺寶燈展のご案内

「掌で愉しむ珠玉の世界」の開催に寄せて

伝統を今に生かし時代の一歩先へとのテーマを掲げ、平成22年より始めました勝福寺寶燈展もこのたび第12回目を迎えます。父祖から連綿と繋がる優れた知恵と技術によって継承された伝統工芸の作品を賞玩いただき、美の世界と日本文化の魅力を提唱する展覧会です。

現在、我が国の伝統工芸は陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門から構成されていますが、これら工芸界の高度な技術は工業製品など広い分野に応用され、実に物づくりの源流ともいえましょう。当山の本展においては私（江原）の心の師であり、また当山の支援者でもありました木工芸家（故）林鶴山氏の作品を主軸に展開し、毎回各分野の工芸作品をご紹介させていただいております。

このたびは、「掌で愉しむ珠玉の世界」と題しまして、手のひらにおさまるほどの小さなお道具に着目いたします。当山所蔵の香合（お香を収納する蓋付の容器）、水滴（硯の水を入れる器具）、印籠（印や印肉、薬を入れる携帯用小箱）と併せて、林鶴山氏の風炉先屏風など計約２０点を展示いたします。

例えば、御香を収納する香合というお道具を例に挙げて見ますと、陶器、磁器、木竹材など様々な材料で制作されます。香合は大切な御香を収納する小さな美術品でもありますから、職方は制作にあたり材料の吟味から完成に至るまでのご苦労が作品を通して伝わってまいります。これは他の分野のお道具についても同様で、是非、熟練の技と手仕事ならではの温かみを感じてください。感性に響くものがあれば幸いです。

昨今は物質文明の発展と生活様式の多様化で、世代問わず畳上で繰り広げられる日本文化に親しむ人の姿を見かける機会は少なくなりました。それに伴い、心を支える和文化は音を立てて崩れているのが現状であります。以前（昭和期頃）は、生活空間に畳間や床の間のある住宅が多く存在し、冠婚葬祭、地区の寄り合い、節句の行事やお稽古ごとなど自然と和文化に触れながら人と人との信頼関係を築く上で精神修養の場も担っていたように思います。

文化とは「文徳による教化」と定義づけられておりますが、各分野に伝わる伝統文化や先ほど述べました精神文化が秘めた結局のところはその道を研鑽することにより、秩序の保たれた平和で豊かな社会を実現するための根幹でもあります。先人の想いを謙虚に受け継いで、その姿勢を現代の生活に見習うことが大切です。文化を軽んじる国家や民族は漂流し、やがて衰退の一途を辿るのではないかと案じております。

最後に、寶燈展の開催にあたり、多大なご尽力をいただきました勝福寺檀信徒並びに、関係者各位に厚く御礼申し上げます。また、当山の子供茶道教室によるお茶席や、有志のお檀家によるうどんのお接待なども予定しております。どうぞ、ご来寺くださいませ。

謹　白

令和7年４月1日

徹林山勝福寺　住職　江原義空拝

真言宗　御室派

徹林山 勝福寺

吉備四国霊場第75番

〒710-1201　総社市久代３４３８
TEL（０８６６）９６－０６１５
FAX（０８６６）９６－２２３３

次回の寶燈展は、当山所蔵の刺繍のみほとけ展を予定しております。お楽しみに。